

城戸 保 Tamotsu KIDO

“風景画 / 舟を釣る” Landscape / Fishing the boat

2017年3月4日(土)～4月2日(日)

レセプション：3月4日(土) 18:00 - 20:00

火曜日～土曜日 11:00 - 19:00 日曜日 12:00 - 17:00

(月、祝日 休廊)



“踊る数字” 2016 C-print, 29.4 x 44.4 cm (「舟を釣る」シリーズより)

この度3月4日(土)より、ハギワラプロジェクトにて城戸保の個展を開催する運びとなりました。

4回目の個展となる今回は、昨年あいちトリエンナーレの特別連携事業「アッセンブリッジ・ナゴヤ」で発表され、東京では初めての発表となる写真作品13点を展示いたします。

城戸は、光と色彩のあり方を考察し、日常に潜む美しさを写真に映し出します。近年は、都市郊外で見かける、放置された車やペンキが剥げた物置といった人工物と、生い茂る花々や蘇鉄などの自然物が混在する景観に着目し、写真の重要な要素である光がもたらす情景を汲み取ることに関心を抱いています。

城戸の写真の中では、鉄や錆も「色彩」となって、物が持つ既存の意味を超えた不変的な要素となって画面に立ち現れてきます。時に錆びたタイヤの中から生えたユリや、古びた車に紐で繋がれた案山子など、ユーモラスな要素も混ざる城戸の写真からは、雑然とした風景に注ぐ光が描く像を見つめる作家独自の視点が見出せます。

「舟を釣る」は、作家自身がボートに乗り込み、海上を巡回しながら名古屋港に停泊する船舶を撮影したシリーズです。船と海の際、という限定された被写体にも関わらず、それぞれの船舶の特徴や個性が抽出された、豊かな表情を生み出しています。

「風景画」

本日は晴天なり。あてもなく車を走らせ、気になる風景を見つけては、Uターンを繰り返す。愛用のトヨの4x5カメラは、これで4台目だ。グリッドの刻まれたピントグラス越しに反転する風景に、また一人狂喜する。シャッターを押す瞬間、おそらく私の脳内では得体の知れない麻薬のような成分が多量に分泌されているにちがいない。きっと私は、「写真のジャンキー」なのだ。

「ジャンキーな画家」になれなかった「写真のジャンキー」にとって、「絵画」は目の上のタンコブだった。しかし私はある日、「絵画」でも「写真」でもない前人未踏の「風景画」を発見した。だから私は、それらのどちらでもないジャンキーになることにしたのである。

城戸 保 (きど たもつ)

1974年三重県生まれ。2002年、愛知県立芸術大学大学院美術研修科修了。主な展覧会に、「アッセンブリッジ・ナゴヤ 2016 現代美術展 | パノラマ庭園-動的生態系にするすー」名古屋港エリア (2016、愛知)、「芸術は森から始まる | 愛知県立美術大学創立 50 周年記念事業、愛知県立芸術大学 (2016、愛知)、「ほんとのうへのツクリゴト」(2015、旧本多忠次邸、岡崎市)、「カミノ/クマノ-聖なる場所へ」(2014、三重県立美術館)、「R42」(2014-2015、HAGIWARA PROJECTS、nap gallery)、「SHOCASE#2 curated by minoru shimizu」(2013、eN arts、京都)、「ギャラリー東京ユマニテ」(2010、東京)、「放課後のほらっば - 榎田伸也とその教え子たち-」(2009、愛知県美術館、愛知)、「young artist world patronage program」(2007、モンブラン銀座本店、東京)、「ギャラリー NAF」(2003、愛知)など。パブリックコレクションに豊田市美術館。

ハギワラプロジェクト

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-18-2-101

T / F: 03 6300 5881 E: info@hagiwaraprojects.com

www.hagiwaraprojects.com

京王新線・都営新宿線「初台」駅東口より徒歩5分／

JR「新宿」駅南口より徒歩15分／都営大江戸線「都庁前」駅より徒歩12分